

- 問1 鎌倉時代の将軍と御家人の間には、土地を仲立ちとした主従関係が結ばれていました。御家人が軍役や京都の警護などを担う「奉公」に対し、将軍が御家人の先祖伝来の所領を認めたり、手柄に応じて新たな土地を与えたりしたことを何といいますか。(2018年 滋賀公立入試 類似)
- 御恩
 - 知行
 - 封建
 - 寄進
- 問2 鎌倉時代初期、ある御家人の領地が5人の子供に分けられ、それぞれが元の領地の一部を継承したとする状況を想定します。このような相続のあり方について述べた文として、最も適切なものはどれですか。(2020年 茨城県公立入試 類似)
- 女子も相続の対象に含まれており、親の領地を分散して受け継ぐことができた。
 - 長男一人がすべての領地を独占し、他の兄弟や女子は一切の財産を得られなかった。
 - 領地はすべて幕府が一度回収し、軍功のあった者だけに改めて分配された。
 - この方法は御家人の基盤を安定させたため、室町時代以降も広く推奨された。
- 問3 13世紀、モンゴル帝国(元)による1度目の侵攻である「文永の役」を経て、鎌倉幕府が博多湾の沿岸に大規模に築かせた石造りの防壁を何と呼びますか。(2015年 佐賀公立入試 類似)
- 元寇防壁(石築地)
 - 台場
 - 山城
 - 環濠
- 問4 鎌倉時代に再建された東大寺南大門の歴史的背景と特徴について述べた説明として、最も適切なものはどれか。(2022年 岡山公立入試 類似)
- 源平の争乱による焼失後、重源が宋の建築様式を取り入れて再建にあたり、武士の好む力強い様式で造られた。
 - 藤原頼通が極楽浄土の様子を再現しようと建立したもので、平安時代末期の貴族文化の華やかさを示している。
 - 聖武天皇が国ごとに建立を命じた国分寺の中心的な建物として、唐の建築技術を駆使して奈良時代に完成した。
 - 禅宗の普及に伴い、室町幕府の支援を受けた僧侶たちが、簡素で落ち着いた雰囲気の様式を用いて建てた。
- 問5 北条泰時が「御成敗式目」を制定した歴史的な背景や目的を説明した文として、最も適切なものはどれですか。(2023年 奈良公立入試 類似)
- 承久の乱の後、地頭と領主の間で増えていた土地をめぐる紛争に対し、公平な裁判の基準を示すため。
 - 蒙古襲来に備えて、御家人たちの団結を強めるために軍役の義務を強化しようとしたため。
 - 朝廷が定めた律令制度を完全に廃止し、全国のすべての階層に適用される新しい統一法を作るため。
 - 徳川氏による幕藩体制を維持するために、天皇や公家の行動を厳しく制限しようとしたため。
- 問6 1221年、鎌倉幕府の混乱に乗じて朝廷の権力を取り戻そうとした後鳥羽上皇が、幕府を倒すために兵を挙げた出来事を何といいますか。(2021年 愛媛公立入試 類似)
- 承久の乱
 - 保元の乱
 - 平治の乱
 - 応仁の乱
- 問7 1221年に後鳥羽上皇が鎌倉幕府を打倒しようとして兵を挙げたものの、幕府軍に敗北した出来事があります。この戦いの名称と、その後に幕府が朝廷を監視し、京都の警備や西国の統治を強化するために京都に設置した役所の組み合わせとして、適切なものはどれですか。(2016年 茨城県公立入試 類似)
- 承久の乱 - 六波羅探題
 - 承久の乱 - 侍所
 - 保元の乱 - 六波羅探題
 - 平治の乱 - 評定衆
- 問8 鎌倉時代において、ある御家人が持つ二百平方メートルの領地を、長男に百平方メートル、長女と次男にそれぞれ五十平方メートルずつというように、親の領地を複数の子供に分けて継承させる仕組みを何と呼びますか。(2025年 鹿児島公立入試 類似)
- 分割相続
 - 単独相続
 - 惣領制
 - 永仁の徳政令
- 問9 1232年に制定された法典において、諸国の守護が果たすべき職務として規定されていた内容はどれか、次のうちから選びなさい。なお、この法典では守護が本来の職務を超えて荘園領主の仕事を手助けすることを禁じています。(2016年 和歌山公立入試 類似)
- 御家人に京都を警備する義務(京都大番役)を指揮・催促し、謀反や殺人などの犯罪者を取り締まる。
 - 全国の田畑の面積を調査し、収穫量に応じた年貢を計算して幕府に報告する。
 - 外国との貿易を管理し、博多などの港で輸出入される品物に課税する。
 - 農村の冠婚葬祭などの行事を主催し、農民の生活全般を細かく規制する。
- 問10 鎌倉時代に宋(中国)から伝えられた新しい仏教の宗派で、座禅を組んで厳しい修行を行い、自らの力で悟りを開こうとする特徴を持つものはどれですか。(2023年 福島県公立入試 類似)
- 禅宗
 - 浄土宗
 - 時宗
 - 日蓮宗
- 問11 鎌倉幕府が国ごとに設置し、国内の武士を統制するために軍事・警察的な役割を担わせた役職として正しいものを次の中から選びなさい。(2014年 和歌山公立入試 類似)
- 守護
 - 地頭
 - 国司
 - 検非違使
- 問12 武士による支配が次第に広がり、東アジア世界との交流が盛んに行われた中世の社会において、鎌倉幕府がその支配権を拡大させた背景について述べた文として、最も適切なものを選びなさい。(2026年 福岡公立入試 類似)
- 朝廷側の勢力から土地を取り上げ、家臣である御家人を地頭に任命して、現地の管理や徴税を担わせる仕組みを広げた。
 - 諸国に守護大名を配置し、各地域の行政権と徴税権のすべてを幕府が一括して管理する中央集権体制を確立した。
 - 有力な農民を御家人として組織し、朝廷の許可なく全ての荘園を没収して武士の私有地とする法令を施行した。
 - 大陸との貿易利益を背景に、各地の国司をすべて廃止して、幕府が直接任命した役人による直接統治を開始した。
- 問13 一遍が始めた「踊り念仏」が、当時の庶民の間に急速に広まった理由として最も適切な説明はどれですか。(2018年 山形県公立入試 類似)
- 音楽や踊りを伴う親しみやすい方法で、特別な修行をせずとも救われると説いたから
 - 幕府の厚い保護を受け、武士の義務として踊り念仏を強制したから
 - 厳しい座禅や学問を重視し、知的な階層からの支持を集めたから
 - 念仏を唱える対価として、寺院が民衆に金銭や食料を配布したから
- 問14 鎌倉時代、ある御家人が300平方メートルの領地を持っており、その死後に長男が150平方メートル、次男が75平方メートル、長女が75平方メートルといった形で、子に領地を分け与えて引き継がせました。このような相続方法を何と呼びますか。(2024年 千葉県公立入試 類似)
- 単独相続
 - 分割相続
 - 均等割当
 - 永代譲渡

答え合わせ・解説

問1	答え 1 御恩	鎌倉将軍と御家人の結びつきは、互いに利益を与え合う「御恩と奉公」の関係に基づいています。将軍側が行う、御家人の本領安堵（所領の保証）や新恩給与（新たな土地の付与）をまとめて御恩と呼びます。これに対し、御家人が命がけで戦うことや幕府の役職に就くことを奉公といえます。
問2	答え 1 女子も相続の対象に含まれており、親の領地を分散して受け継ぐことができた。	鎌倉時代初期の「分割相続」では、女子にも領地を分ける権利が認められていたことが大きな特徴です。しかし、この仕組みは世代が進むにつれて個々の御家人が持つ領地を著しく減少させることになり、元寇（モンゴル襲来）による出費などの負担も重なって、御家人の生活を苦しめる要因となりました。その結果、時代が下るにつれて長男などが一括して受け継ぐ「単独相続」へと変化していきました。
問3	答え 1 元寇防塁（石築地）	文永の役（1274年）でモンゴル軍の集団戦法や火器に苦戦した鎌倉幕府は、再度の襲来に備えて九州の御家人らに命じ、博多湾の海岸線約20kmにわたって石垣を築かせました。これを元寇防塁、または石築地（いしついで）と呼びます。幕府はこの防備により、2度目の襲来である弘安の役（1281年）において元軍の上陸を阻止することに成功しました。
問4	答え 1 源平の争乱による焼失後、重源が宋の建築様式を取り入れて再建にあたり、武士の好む力強い様式で造られた。	東大寺南大門は、源頼朝の支援を受けた重源によって再建されました。当時の中国（宋）の最新技術である「大仏様」を採用し、太い円柱を何本も貫（ぬき）でつなぐ堅牢な構造が特徴です。これは当時の武士たちの質実剛健な好みに合致していました。他の選択肢は、平等院鳳凰堂、奈良時代の建立背景、室町文化（禅宗様）の説明であり、時代や特徴が異なります。
問5	答え 1 承久の乱の後、地頭と領主の間で増えていた土地をめぐる紛争に対し、公平な裁判の基準を示すため。	承久の乱の結果、幕府の支配力が西日本にも及びましたが、それに伴い地頭と貴族などの荘園領主との間で土地トラブルが多発しました。執権の北条泰時は、武士の慣習に基づいた明確な判断基準を設けることで、御家人たちに公平な裁判を保証し、幕府への信頼を高めることを狙いました。
問6	答え 1 承久の乱	鎌倉幕府の3代将軍・源実朝が暗殺された後の混乱を機に、後鳥羽上皇が執権の北条義時を討つよう命じて起こした反乱です。幕府軍が勝利した結果、朝廷を監視するために六波羅探題が設置され、幕府の支配力が西日本にも強く及ぶようになりました。応仁の乱は室町時代に起こった戦いです。
問7	答え 1 承久の乱 - 六波羅探題	1221年に起きた承久の乱は、源実朝が暗殺された後の混乱に乗じて後鳥羽上皇が朝廷の権力を取り戻そうとした戦いです。幕府側は北条政子の演説などで御家人の団結を促して勝利しました。戦後、幕府は朝廷の監視や京都の警備、さらに西日本の武士を統治することを目的として、京都に六波羅探題を設置し、支配体制を固めました。
問8	答え 1 分割相続	鎌倉時代には、一族の長である惣領を中心に、領地を子に分け与えて継承させる制度が行われていました。当時は女性にも相続権が認められていた点が特徴的ですが、この方式は世代交代を繰り返すごとに一人が所有する領地が狭くなっていくという課題を抱えていました。
問9	答え 1 御家人に京都を警備する義務（京都大番役）を指揮・催促し、謀反や殺人などの犯罪者を取り締まる。	御成敗式目の中では、守護の職務を「大犯三箇条（だいほんさんかじょう）」と呼ばれる重要な職務などに限定していました。具体的には、御家人を催促して京都を警備させることや、謀反人・殺害人の逮捕といった治安維持が中心です。これは、守護が荘園の管理に不当に介入して、荘園領主（貴族や寺社）と対立することを防ぐ狙いもありました。
問10	答え 1 禅宗	鎌倉時代に成立した新仏教の中でも、座禅による修行を重視する教えは禅宗と呼ばれます。栄西によって伝えられた臨済宗や、道元によって伝えられた曹洞宗がその代表です。これらは「自力」の教えを強調しており、他者の救済を念じる浄土信仰などとは対照的な性格を持っていました。
問11	答え 1 守護	源頼朝が1185年に朝廷に認めさせて設置した役職です。国ごとに1人ずつ配置され、主に「大番催促（京都の警備役の割り当て）」や「謀叛人・殺害人の逮捕」といった軍事・警察権を行使しました。一方、荘園や公領ごとに置かれ、土地の管理や年貢の徴収を行った役職は地頭です。
問12	答え 1 朝廷側の勢力から土地を取り上げ、家臣である御家人を地頭に任命して、現地の管理や徴税を担わせる仕組みを広げた。	中世の日本では武士による支配が拡大していく過程で、幕府は地頭の任命という手段を用いました。本来、土地の管理権や徴税権は貴族や寺社が持っていましたが、幕府が自身の御家人を地頭として送り込むことで、実質的な支配権を武士の手に移していきました。これが、後の武士社会の基盤となりました。
問13	答え 1 音楽や踊りを伴う親しみやすい方法で、特別な修行をせずとも救われると説いたから	鎌倉時代までの伝統的な仏教は難解な理論や厳しい修行が中心でしたが、一遍は踊りという娯楽的な要素を取り入れ、「阿弥陀仏に身をゆだねれば誰もが極楽浄土へ行ける」という簡潔な教えを説きました。この分かりやすさと親しみやすさが、日々の生活に追われる庶民に受け入れられた背景にあります。
問14	答え 2 分割相続	武士の所領は一族の財産と考えられていたため、鎌倉時代の中頃までは女子も含めた複数の子に領地を分ける「分割相続」が行われていました。この仕組みは、子たちに公平に財産を分けるものでしたが、数世代後には1人あたりの領地が極端に狭くなるという欠点がありました。その結果、武士としての奉公（軍役）を果たすことが困難なほどに困窮する者が現れたため、室町時代になると、一族の力を維持するために一人の相続人がすべてを継承する「単独相続」へと変化していきました。